デンマークからこんにちは！

小島ブンゴード孝子

最終回

メッセージ

一年にわたり、私が半世紀暮らしてきたデンマーク社会のこと、特に子育て、教育、女性の仕事と自立、そして先人たちがどのように生き、またどのように社会を変えていったかについてお伝えしてきました。

あまりの違いに驚かれたでしょうか？あるいは、日本と共通する部分もあると思われましたか？

デンマークと日本を行き来する人生を送ってきて強く感じるのは、①日本国内で発信されている莫大な量の海外情報は、かなり偏った部分的情報で、その点でも日本は島国だということ、②現状に不満を抱いていても、それに甘んじ、あきらめる気運が特に若年層に強いこと、③一般的に政治への関心が薄く、政治家や行政に対する信頼度が低いこと、④地域活性化や社会問題改善に取り組む人々が全国各地で素晴らしい活動をされていますが、それらは0・061で、ごく限られた女性しか日本社会を変革する重大決定に参加できていないこと。さらに日本の少子化現象にも、危機感を募らせています。

女性が輝く社会に

「海外に住む日本人女性として、女性に焦点を当てたメッセージを送りたい」という想いから2019年に出版した本が、『デンマークの女性が輝いているわけ』（写真）です。

本著ではコラムで多くの点がなかなか線で結ばれず、面へと広がっていかないことなどです。

また毎年発表されるジェンダーギャップ指数は、日本は常に順位が低く、特に女性の政治分野指数取り上げたテーマ等をより深く掘り下げていますので、関心がおありでしたら是非ご一読下さい。

最後に、デンマーク女性連盟会長、労働大臣として活躍したグレーテ・ミュラー氏が女性連盟創立125年記念誌で述べたメッセージをお送りします。

「今後の平等社会作りで大事な課題の一つは、男性も、女性も、いかに仕事と家庭を両立させるかということでしょう。どうすれば、私たち皆が、自分たちの人生を満足のいく平等な方法で調和させることができるでしょう。そしてどうすれば、私たち個人の能力をフルに活かし、かつ私たちの子ども世代にも良い基盤を作ってあげられるでしょうか。これが、今を生きる男女が一緒になって真剣に考えるべきことなのです」

ジェンダーフリーかるた

ぼう！
ー平等

女性の労働権を侵害

ントとは、嫌がらせの意図がなくとも、
させる性的言動。「セクハラ」はアメ
年代に使われ始め、1985年ILO総会で
権を侵害するもの」と位置付けられまし
パタハラ問題など法制化も進んできま
、生きやすい社会をめざしましょう。

るた」は好評のうちに完売しました。
で徳島県教職員組合にご相談ください。
メール toku-tu@earth.ocn.ne.jp

いちおし

行き先不明 新春ツアー

毎年1月の初め、「新春三社詣ミステリーツアー」という企画のマイクロバス日帰りツアーが1社目だった。2社目は宮崎の「東霧島神宮」。鬼神宮が造った伝

が多い。早朝の出発なのに車中の賑やかなこと。昨年は県内の神社だったが、今年はどこへやら。

高速を下り、鹿児島県の「霧島神宮」

発信

絵で語り継ぐ東日本大震災

茨城県本部　中村

東日本大震災、福島原発事故から12年になります。当時の被災状況は、写真や映像でご存じだと思います。

村岡信明氏（東京大空襲・死と生の記憶『赤い涙』著者）は2011年6月、東日本大震災直後の被災地に足を運び、被災者の方と会って多くの絵を描きました。

東日本大震災を絵で語り継ぐ『慟哭の故郷』は、震災や原発事故により故郷を追われた被災者の深層に潜む悲哀と怒りを描いて「今、描こうと思っても描けない」と、村岡氏は語って

反戦・平和み「東京大震れない〝平集い〟」の実行してかかわり深まった村ら大小の絵画点を預かりま

東日本・福島原を風化さ取組みと絵画展がですか哭の故郷示をご希の連絡おています

また、東京大空れない〝集い〟は3年7月4日に絵と、3日があり『の絵』（立基町高007年り組んでいる者の体験を る」）を江東センターで上